

## 10 旧広島陸軍被服支廠の重要文化財指定

### 国への提案事項

旧広島陸軍被服支廠については、旧日本陸軍が大正2年に建設した国内最古級の鉄筋コンクリート造倉庫4棟が、被爆の実相を伝える被爆建物として現存しており、高い歴史的価値・文化価値を有することから、重要文化財への指定などを求める。

【提案先省庁：財務省、文部科学省】

### 現状／広島県の取組

- 被爆建物である旧広島陸軍被服支廠は、大正2年の竣工で、築100年を超えており、近隣住民の安全確保の観点からも各棟の妻壁補強や屋根瓦の葺替えなどの早急な安全対策が必要となっている。
- このため、本県では、安全対策工事の実施設計に着手し、令和5年3月にその結果をとりまとめた。
- 併せて、建物の具体的な活用策の議論・検討に向け、「活用の方向性」をとりまとめた。
- 建造物の価値調査については、高い歴史的・文化財的価値を有していることが明らかになっている。また、歴史的建造物の有識者から重要文化財に指定するべきとの意見をうけており、県としても、速やかに重要文化財の指定を受けたいと考えている。

### 課題

- 重要文化財への速やかな指定が必要である。
- 重要文化財の指定を受けた上で、多額に及ぶ安全対策工事の財源確保のため、国の財政措置を受ける必要がある。

